

# LS研究委員会

## 研究分科会

研究分科会は「人材育成・人脈形成」「研究成果の実務への適用」「会員企業の課題・問題解決」を目的にGive & Takeの精神で1年間共同研究する場です。1年の成果は会員企業のICT活用にご利用いただく他、対外発表するなど積極的に活動しています。

2013年度の分科会メンバー募集を以下のテーマで行います。多数のお申し込みをお待ちしています。

参加者  
募集中

2013年度活動

<4月から翌年3月まで1年間、原則月1回実施>

分野	No.	テーマ名	分野	No.	テーマ名
ICT戦略 ／ 人材育成	1	経営に貢献する情報システム企画と評価	技術 ／ 技法	13	超高速開発技術の研究
	2	業務プロセス改革を実現する全体最適化企画		14	テスト範囲の見極めと精度向上、効率化の研究 ～品質と期間・コストの両立～
	3	経営視点での要求仕様・要件定義における品質の向上		15	非機能要件のテスト手法の研究
	4	クラウド時代の情報システム部門におけるサービス化に向けた人材育成		16	ビッグデータ技術を活用したバッチ処理の高速化
	5	グローバル経営を支えるICT基盤の展開／運用保守		17	新たな領域でのデータ利活用 ～位置データや拡張現実 (AR) を利活用した新たな領域への適用～
	6	一括請負契約における開発を成功させるガイドライン		運用 ／ 管理	18
技術 ／ 技法	7	運用課題から企画・設計・開発へのフィードバック	19		ICTを活用した運用品質の向上
	8	業務プロセス可視化ツールの活用	20		ヒト・コト・モノに着目した属人化が運用保守に与える影響 の分析と対応
	9	ネットワークの仮想化と今後の活用	21		スマートデバイスの業務活用における運用のあり方
	10	企業ICT最適化に向けたハイブリッドクラウドの活用	22		スマートデバイスにおける利用者情報の活用とセキュリティ 対策の両立
	11	スマートデバイスのUX* 向上のための開発手法 * UX: User Experience	新分野		23
	12	アジャイル開発における開発・保守の品質保証		24	企業における次世代コミュニケーションのあり方

(上記のテーマ名は変更される可能性があります。正式なご案内をご覧ください。)

過去の研究成果は▶ <http://jp.fujitsu.com/family/lskan/activity/work-group/> 「過去の活動内容」をクリックしてください。

## 短期分科会

短期分科会は情報共有や意見交換に重点を置いた調査・検討活動を6カ月という短期間で行います。1年間の研究分科会と同様に富士通グループよりコーディネーターが参加し、活動をサポートします。

活動中

2012年度活動

<7月から翌年1月まで半年間、活動中>

No.	テーマ名
1	ビッグデータによる経営貢献
2	震災を考慮した ICT インフラの継続性について
3	アジャイル開発における開発技法の研究

過去の活動成果は▶ <http://jp.fujitsu.com/family/lskan/activity/s-work-group/> 「過去の活動内容」をクリックしてください。

## 2012年度活動報告

### ジョイントフォーラム

経営者・部門長向けイベント 年1回実施

#### 「データの新たな利活用技術とビジネス革新」

～最新ICTを駆使し、競争力向上を目指して～

ジョイントフォーラムは、会員と富士通グループが会員の抱えている夢の実現に向けて討議する場です。次世代ICTの方向性に関わるキーワードテクノロジーやビジネス戦略についてLS研究会の部門長の方々と富士通グループのSEおよび製品・サービス開発部門の責任者が直接意見を交換します。クロードセッションで富士通グループの未発表情報も含めた製品やビジネスの方向性を情報提供します。

2012年度は10月17日(水)に「[データの新たな利活用技術とビジネス革新]～最新ICTを駆使し、競争力向上を目指して～」と題して実施しました。

富士通からは、「お客様のビジネス革新を支えるICT」、「新たなデータ利活用技術によるビジネスの加速」についてご紹介しました。その後の意見交換では、始めに「現行業務のスピード向上と埋もれているデータ活用」ということで、Hadoopなどの技術を利用したバッチの高速化や企業内に埋もれているシステムログの活用について議論されました。次に「新たな領域でのデータ利活用」ということで、AR (Augmented Reality) を活用して従来ICTが入り込めていなかった領域へのICTの適用や位置データという新たなデータ利活用など、デモや事例を交えて議論されました。

#### ■会員のコメント

- 事例紹介をベースとした議論ができたのでユーザー代表と富士通さんの相互が新たな視点での方向性を確認できる場面が多くあったと思いました。
- 富士通さんの技術の今後の方向性について情報を収集できましたし、富士通さんの課題認識が私たちと同様であることが確認でき、頼もしく思った次第です。
- 富士通さんの今後のクラウドの方針、現状を把握することができ、有意義でした。
- 自由な意見交換の中に新たな発見がある。
- 各社の課題、問題点等がいろいろ聞けて参考となりました。

### ミニジョイントフォーラム

部門長・課長向けイベント 年2回実施

#### 「ソフトウェア品質の更なる向上の実現に向けて」

2012年度は8月29日(水)に「ソフトウェア品質の更なる向上の実現に向けて」と題して実施しました。

富士通からは、富士通の品質ソリューション「Quality-shaping (クオリティ・シェイピング) の品質マネジメント支援サービス\*」をご紹介し、ご出席された会員様からも、各社における適用シーン、適用分野などに対する課題についてご紹介頂きました。

その後の意見交換では、「品質確保・向上のための課題と対策」というテーマで、①各社取り組みを運営保守フェーズにおける開発および運用の品質 ②要求仕様・要件定義における品質といった、2グループに分かれて討議されました。

\*品質マネジメント支援サービス: プロジェクトに最適な品質フレームワーク(目標とする品質を確保するためのプロセス・手順の枠組み)の構築・運用を支援するサービス。  
<http://jp.fujitsu.com/solutions/quality-shaping/>

#### ■会員のコメント

- 普段、生保や金融に閉じたセッションが多いので様々な業種形態の方のお話をうかがえたのは良かった。
- 非常に難しいテーマではあったが他社の取り組みなど参考にできる事も多く、今後のエッセンスとしたい。
- 自身の課題認識に対する答えは見つからなかったが、同じ認識を共有させていただいたことに意味があったと思う。

## 2012年度 第2回 LS研セミナー

#### 「スマートフォン/タブレット PC 最前線」

2012年11月27日(火) 富士通汐留本社24階の大会議室でLS研セミナーが開催されました。今回は「スマートフォン/タブレットPC最前線」をテーマに、業務に導入されつつあるスマートデバイスについて「ICTマネジメント」「プロダクト」「セキュリティ」の3つの観点から講演を行いました。また、2012年度版ICT白書についてトピックスと読みどころを紹介しました。

<プログラム>

基調講演 『クラウド、スマホによる経営の改革』

武蔵大学 経済学部 教授 松島 桂樹 氏

講演 1 『スマートフォン/タブレットの最新動向と富士通の取り組みについて』

富士通(株) ユビキタスビジネス戦略本部 本部長代理 松村 孝宏 氏

講演 2 『スマートデバイス活用から見てきた「働き方」(価値創造型)とセキュリティ』

富士通(株) サービスビジネス本部 安心安全ビジネス推進室長 太田 大州 氏

LS研ICT白書2012のご報告 ～トピックスと読みどころ紹介～

#### ■会員のコメント

- スマートデバイスの活用ばかり考えがちだが、人材教育面も含め新規に利用することの意味/意義についてよく考えなければと思った。
- センシングやビックデータ、最新のスマホ/タブレットのトレンドや技術の話が整理されていて良かった。
- セキュリティ対策提案の脅威分析のテンプレートがとても良いと思った。



参加人数 143名 (83社)

## 情報化調査

# LS研 ICT白書

LS研会員企業における  
ICT活用の現状と今後

## LS研ICT白書

LS研ICT白書は、LS研究委員会の会員企業におけるICTの活用の現状と今後を把握することを目的に調査した報告書で、今年で34回目を迎えます。

本書は、従来の「IT白書」から今年度より「ICT白書」に名称を変更致しました。また、Give&Takeの精神に則り、調査にご協力いただいた会員の方のみに配布をしております。2012年度も多くの方々にご回答いただきまして誠にありがとうございました。

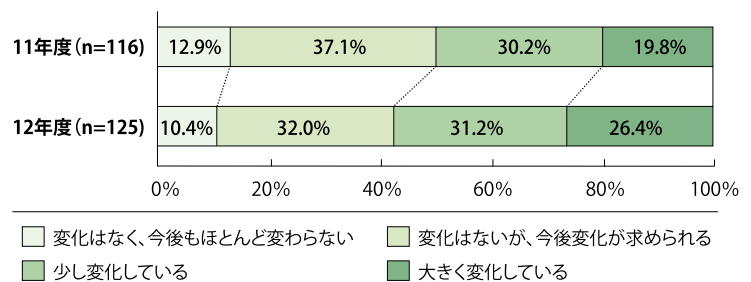
今回の ICT 白書では、従来の調査テーマに加え、モバイル機器の導入状況など新規設問を設定しました。急速に業務へ導入されつつあるスマートデバイスについて、情報システム部門の活用動向を調査致しました。

## 情報システム部門の役割の変化

情報システム部門の役割については、変化している、あるいは変化が求められるという割合が、89.6%と大半を占める（図表1）。

また、「大きく変化している」との回答が昨年度と比較すると増加しており、情報システム部門の役割変化の流れがさらに大きくなっていると捉えられる。

図表1 情報システム部門の役割変化に対する認識  
昨年度との比較（有効回答：125会員）

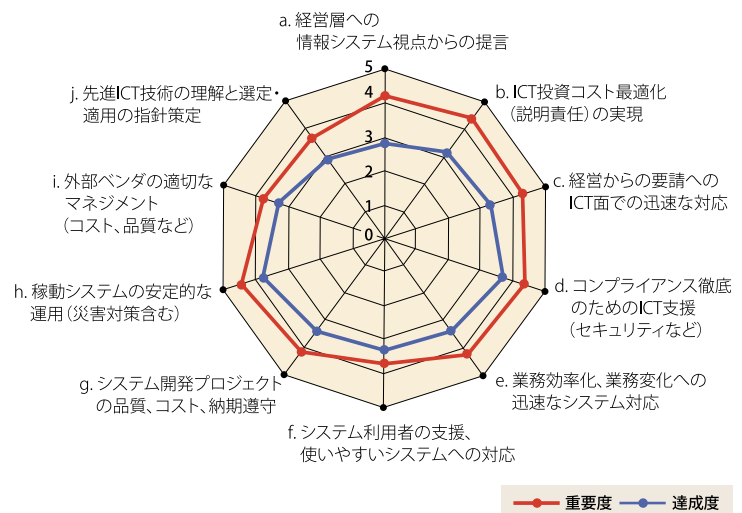


## 情報システム部門の役割と機能

情報システム部門の役割として最も重要視されているのは、「b. ICT 投資コスト最適化（説明責任）の実現」、次いで「h. 稼働システムの安定的な運用（災害対策含む）」、「c. 経営からの要請への ICT 面での迅速な対応」、「d. コンプライアンス徹底のための ICT 支援」であり、2010 年度から同様の傾向である。

また、重要度と達成度の差の傾向も同様で、「f. システム利用者の支援、使いやすいシステムへの対応」や「i. 外部ベンダの適切なマネジメント」など従来から情報システム部門に求められている役割・機能に対する達成度は高い。一方で、「a. 経営層への情報システム視点からの提言」や「b. ICT 投資コスト最適化（説明責任）の実現」などの新しい役割・機能についてはシステム部門として対応しきれていないことが伺える。

図表2 情報システム部門の役割と機能に対する重要度と達成の認識  
（有効回答：113会員）

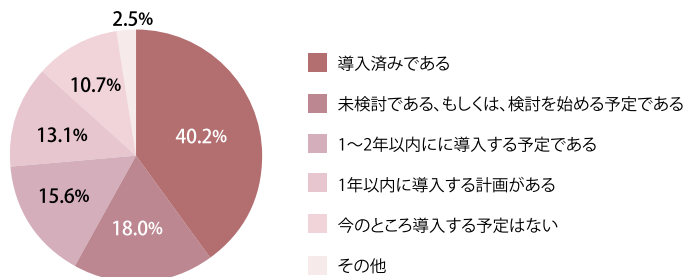


## モバイル機器の導入状況

会員企業の40.2%がモバイル機器を「導入済みである」。「1年以内に導入する計画がある(13.1%)」、「1～2年以内に導入する予定である(15.6%)」、「未検討である、もしくは、検討を始める予定である(18.0%)」まで含めると、9割近くの企業がモバイル端末を導入することになる。

※本設問では一部に導入しているか、全社に導入しているかの分離を行っていないため、一部導入の会員が「導入済みである」以外の項目を選択した可能性がある。

図表3 モバイル機器の導入状況 (有効回答: 122会員)

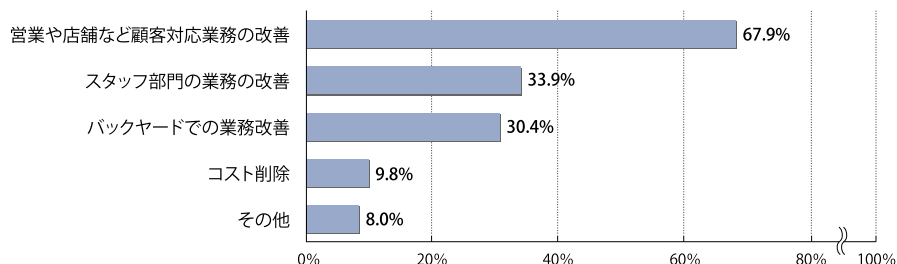


## モバイル機器の導入目的

モバイル機器導入の目的としては、「営業や店舗など顧客対応業務の改善」が67.9%と最も多い。モバイル端末によって、顧客接点での対応を改善しようとしている会員企業が多いと考えられる。

反面、コスト削減期待は1割を切っており、その面での期待は少ない。

図表4 モバイル機器の導入目的 (有効回答: 112会員)



## モバイル特有の期待効果

上位4項目は、回答割合の多い順に「顧客との画面共有が可能(51.3%)」、「一般家庭などで普及しており、操作方法がよく知られている(46.9%)」、「3G回線やWi-Fiなど、通信機能が充実している(43.4%)」、「ノートPCに比して軽量、可搬性に富む(39.8%)」となっている。

前設問で最も多かった顧客対応業務改善の方法として、顧客との画面共有が期待されていることが分かる。また、操作方法がよく知られていることや、通信機能の充実、軽量、可搬性に富むといった使い勝手の良さへの期待も大きい。

「メールやスケジュールなどのアプリケーションが充実している」は28.3%にとどまっている。

図表5 モバイル特有の期待効果 (有効回答: 109会員)

